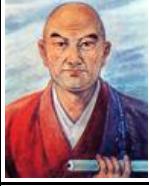
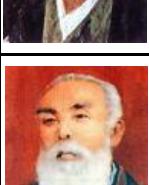


ここに掲げた人々は、千葉県が昭和38年以降選定した、県民ひとりひとりにとって忘れることができない郷土の偉人・先覚者です。

名前 生没年	肖像画	地域	業績
ちばつねたね 千葉常胤 1118-1201		下総地域 上総地域	千葉氏発展の基礎を固めた武将。元永元年(1118)に生まれる。下総権介千葉常重(つねしげ)の長男。治承4年(1180)源頼朝の挙兵に応じ、御家人の筆頭として重んじられ、鎌倉幕府の成立に貢献。その功により下総守護に任じられ、下総、上総、肥前、陸奥などに所領をあたえられた。通称は千葉介。建仁元年(1201)3月24日没。
にちれん 日蓮 1222-1282		鴨川市	わが国宗教史上の巨星。承久4年(1222)2月16日現在の鴨川市小湊に漁師の子として生まれる。12歳で清澄山へ入る。16歳のとき是聖坊蓮長と改名。比叡山、三井寺、高野山を歴訪、諸派を学んだが法華経こそ仏教の真髄と信念し、32歳清澄に帰り日蓮と改名、日蓮宗を開く。国と衆生の救済を祈念して波乱限りない生涯を送った。弘安5年(1282)10月13日没。
ひしかわもろのぶ 菱川師宣 ?-1694		鋸南町	浮世絵の創始者。現在の安房郡鋸南町保田に縫箔師菱川吉左衛門の子として江戸時代初期(生年不詳)に生まれる。当時の武士階級の御用画派狩野家、土佐家等の貴族画派と異なる庶民趣味の風俗を活写した絵画、浮世絵の分野を確立した。後の菱川流をつくり、浮世絵版画の創始大成者として大きな業績を残した。元禄7年(1694)6月4日没。
だいがしんべい 醍醐新兵衛 (初代・定明) 1630-1704		鋸南町	関東捕鯨の祖。寛永7年(1630)現在の安房郡鋸南町勝山の生まれ。安房勝山の浜名主で、捕鯨の元締め。突取法による捕鯨船団を組織し、捕鯨の基礎をつくった。漁民を指導し、社寺の復興と寄進に勤めた。宝永元年(1704)没。定明以来、子孫は代々醍醐新兵衛を襲名し、捕鯨の元締めとして腕をふるい、漁業技術の開発や民衆の救済などを一貫して続けた。
あおきこんよう 青木昆陽 1698-1769		千葉市 九十九里町	サツマイモ普及の祖。元禄11年(1698)、江戸日本橋の魚問屋、青木伴右衛門の長男として生まれる。通称文蔵、号を昆陽という。救荒作物としてサツマイモ栽培法『蕃薯考』を著し、これにより徳川吉宗に認められ、享保2年(1717)現在の千葉市花見川区幕張町、及び山武郡九十九里町不動堂でサツマイモを試作し、本邦普及の端緒を開いた。後に幕府の御用学者になり、特にオランダ語学習に力をそそぎ著作を残した。明和6年(1769)10月12日没。
いのうただたか 伊能忠敬 1745-1818		九十九里町 香取市	江戸後期の世界的地理学者。延享2年(1745)現在の山武郡九十九里町小関に生まれる。18歳のとき佐原の酒米穀業伊能家の養子となる。当時不振な家業を30年間一心に働いて復興し、50歳で隠居。江戸に出て幕府天文方の高橋至時の弟子になり、晩学よくつとめ、寛政12年(1800)から17年間日本全土を測量、世界に誇る日本地図を完成した。文化15年(1818)4月13日没。
おおはらゆうかく 大原幽学 1797-1858		旭市	江戸末期の農業指導者。寛政9年(1797)愛知県名古屋に生まれる。諸国を遊歴し、儒教・仏教・神道の三道を学び、天保2年(1831)現在の旭市長部に至り、教導所・改心楼において人倫道徳を講ずるとともに、土地出資の信用組合を考案し、農家経済の復興と農業技術改善に貢献した。しかしその教えが幕府から疑惑の眼で見られたため、自ら責を負い、安政5年(1858)自害した。
さとうたいぜん 佐藤泰然 1804-1872		佐倉市	近代医学の先駆者。文化元年(1804)現在の神奈川県川崎市で生まれる。名は信圭。号は紅園で、泰然は通称である。堀田正睦の招きで江戸から佐倉に移住し、蘭(オランダ)医学塾兼診療所「佐倉順天堂」を開設。日本で最初の「膀胱穿刺」手術に成功し、卵巣水腫・乳がん手術、種痘など先進の医療を行い、医学界を担う人材を育てた。佐倉順天堂はのちに順天堂医院、順天堂大学に発展した。明治5年(1872)4月10日没。
ほったまさよし 堀田正睦 1810-1864		佐倉市	文明開化の貢献者。文化7年(1810)佐倉藩江戸屋敷に生まれる。佐倉藩主。天保5年(1834)寺社奉行、同12年(1841)老中となる。蘭癖とあだ名されたほど西洋文明を取り入れ、おくり名も文明公という。老中首座、外国事務取扱、海防月蕃専任を兼ね、外国との交渉にあたった。積極的開国論者で、藩民から多くの進歩主義者を輩出し、明治の文明開化に多大の貢献をした。元治元年(1864)3月21日55歳で佐倉城中で没。
さとうしゅんかい 佐藤舜海 1827-1882		香取市 佐倉市	外科医学の巨峰。文政10年(1827)現在の香取市小見川に生まれ、号を尚中という。早くから江戸で儒学、医学を修め、天保13年(1842)佐藤泰然に師事、西洋医学を学ぶ。万延元年(1860)長崎の蘭医ポンペにつく。文久2年(1862)佐倉に帰り、順天堂の診療教授となる。明治6年(1874)東京下谷に病院を建て、同8年(1876)病院を湯島に移す。今の順天堂病院のはじまりである。著書に『外科医方』等があり、わが国西洋医学の先駆者。明治15年(1882)7月23日没。

名前 生没年	肖像画	地域	業績
にしむらしげき 西村茂樹 1828-1902		佐倉市	明治の文明評論家。文政11年(1828)江戸の佐倉藩藩邸で生まれる。号を泊翁という。儒学を安井息軒、大槻磐溪に、兵法・蘭学を佐久間象山に学ぶ。佐倉藩政にも参画し、多大の貢献をした。明治4年(1871)印旛県権参事となる。同6年森有礼らと明六社をおこす。教科書編さん、『文明評論』『国語辞典』『古事類苑』の編集によって近代文化の向上の基礎をつくった。明治35年(1902)8月18日没。
しばはらやわら 柴原 和 1832-1905		千葉県	本県の初代県令。天保3年(1832)に旧播磨国龍野藩(兵庫県)の藩士の子として生まれる。儒学、漢学などを学んだ後、明治2年(1869)に岩倉具視・大久保利通に認められ明治新政府に出仕した。各県で参事を務めた後、同6年(1873)の印旛県・木更津県権令から初代官選の千葉県令となった。このときわが国最初の県議会を起し、民意を尊重した統治機構の創設実践者として名県令と称せられた。同38年(1905)11月9日没。
さとう しず 佐藤志津 1851-1919		佐倉市	情熱の女子教育家。嘉永4年(1851)、佐倉順天堂医院佐藤舜海の長女として生まれる。幼少のころから漢学、国学をはじめ武芸などの教育を受けながら成長した。明治35年(1902)には、女子美術学校の校主となり、現在の女子美術大学の基礎を築いた。また、大正4年(1915)には付属の佐藤高等女学校を開校、その経営に才腕を発揮した。同8年(1919)3月17日没。
つばいげんどう 坪井玄道 1852-1922		市川市	体操教育の功労者。嘉永5年(1852)年現在の市川市鬼越に生まれる。慶応2年(1866)江戸に出て開成所において英語を学ぶ。明治4年(1871)に後の東京大学となる大学南校に勤める。同11年(1878)体操伝習所雇、同19年(1886)高等師範学校助教諭、後に女子高等師範学校教授などを兼任し、晩年まで体操教育に専心した。同37年(1904)体操研究のため体育法を決定する要綱制定に当たり、わが国体育の基礎確立に尽力した。大正11年(1922)11月2日没。
いしかわくらじ 石川倉次 1859-1944		市原市 茂原市など	日本点字の父。安政6年(1859)浜松に生まれる。明治元年(1868)に現在の市原市鶴舞に移る。同6年(1873)市原鶴舞小学校入学、同12年(1879)千葉師範学校を卒業し、翌年幕張浜田小学校勤務。同19年(1886)訓盲啞院雇となり、翌20年東京盲啞学校助教諭となる。同23年(1890)11月1日には彼が考察した点字が選定され、わが国盲学教育の発展に貢献した。昭和19年(1944)12月23日戦争疎開中群馬県安中にて没。
いとう さちお 伊藤左千夫 1864-1913		山武市	近代歌壇の巨匠。元治元年(1864)8月18日現在の山武市殿台に生まれる。本名を幸次郎という。明治6年(1878)嶋小学校入学、同22年(1889)牛乳搾取業を東京において開業。同32年(1899)正岡子規の門に入り、万葉派短歌の創作、研究をした。子規没後、『馬酔木』後に『アララギ』を発刊する。歌風雄大、豪壮、万葉ぶりをもって聞こえる。アララギ派の歌人、ほかに写生文や『野菊の墓』等の名作を著した。大正2年(1913)7月30日没。
つだ うめこ 津田梅子 1864-1929		佐倉市	女子教育の母。元治元年(1864)佐倉藩出身の津田仙の次女として生まれる。7歳のとき、我が国最初的女子留学生として、他の4少女とともに渡米した。11年間の渡米の後、明治15年(1882)に帰国、数校の英語教師となった。同31年(1898)女子高等師範学校教授に、同年6月には万国婦人連合大会に日本代表となり、さらに同33年(1900)に現在の津田塾大学の基礎を築くなど、日本における女子教育の先駆者として活躍した。昭和4年(1929)8月16日没。
しらとりくらきち 白鳥庫吉 1865-1942		茂原市	東洋史の世界的権威。元治2年(1865)現在の茂原市に生まれる。明治23年(1890)東京帝国大学卒業後、学習院大学教授となり、東洋史の開拓を志す。同33年(1900)文学博士となり、欧州留学から帰国の後、同37年(1907)から東京帝国大学教授を兼任する。満州・蒙古・朝鮮・中央アジア等の民族史及びその言語研究を重要視し、実証主義の史学を確立し、数多くの著作を残した。昭和17年(1942)4月1日没。
すずきかんたろう 鈴木貫太郎 1868-1948		野田市	太平洋戦争終結時の総理大臣。慶応3年12月24日(1868年1月18日)関宿藩の飛地、現在の大阪府堺市伏尾に生まれ、明治8年(1875)関宿久世小学校に入学する。同20年(1887)に海軍兵学校卒業後、日清・日露戦争に従軍した。大正12年(1923)に海軍大将となるが、昭和5年(1930)ロンドン海軍軍縮条約の全権として調印したことがもとで、同11年(1936)二・二六事件で重傷を負う。敗色濃厚となった同20年(1945)4月7日に総理大臣に就任し、終戦の道筋を開いた。同23年(1948)4月16日没。
くにきた どんぼ 国木田独歩 1871-1908		銚子市	明治の文豪。明治4年(1871)7月15日現在の銚子市新生に生まれる。本名哲夫。同21年(1888)東京専門学校入学。植村正久によりキリスト教の洗礼を受け、ワーズワース・エマーソンの汎神論自然観の影響を受ける。日清戦争従軍記者、愛弟通信で人気を博した。著書に『運命』『武蔵野』『牛肉と馬鈴薯』『欺かざる記』等あり、わずか38歳で文豪と仰がれた。明治41年(1908)6月23日没。